

# 四半期報告書

(第71期第3四半期)

自 平成30年4月1日

至 平成30年6月30日

横浜冷凍株式会社

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 2

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 3
- 2 経営上の重要な契約等 ..... 3
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 3

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 5
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 5
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 5
- (4) ライツプランの内容 ..... 5
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 5
- (6) 大株主の状況 ..... 5
- (7) 議決権の状況 ..... 6

#### 2 役員の状況 ..... 6

### 第4 経理の状況 ..... 7

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 ..... 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ..... 10
  - 四半期連結損益計算書 ..... 10
  - 四半期連結包括利益計算書 ..... 11
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ..... 12

#### 2 その他 ..... 16

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 17

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年8月13日
【四半期会計期間】	第71期第3四半期（自平成30年4月1日至平成30年6月30日）
【会社名】	横浜冷凍株式会社
【英訳名】	YOKOHAMA REITO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩渕 文雄
【本店の所在の場所】	横浜市鶴見区大黒町5番35号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号 みなとみらいグランドセントラルタワー7階
【電話番号】	(045) 210-0011
【事務連絡者氏名】	経理部長 星 光孝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第3四半期連結 累計期間	第71期 第3四半期連結 累計期間	第70期
会計期間	自平成28年 10月1日 至平成29年 6月30日	自平成29年 10月1日 至平成30年 6月30日	自平成28年 10月1日 至平成29年 9月30日
売上高 (百万円)	117,699	129,969	159,045
経常利益 (百万円)	4,580	3,742	5,433
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,795	2,354	3,360
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,281	3,495	6,805
純資産額 (百万円)	68,180	76,891	69,688
総資産額 (百万円)	165,549	192,119	173,699
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	53.61	42.58	64.28
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	47.28	39.81	56.83
自己資本比率 (%)	40.44	39.36	39.44
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△7,182	△5,299	△6,930
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△6,715	△13,932	△11,173
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	13,970	17,221	19,124
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	5,409	4,432	6,399

回次	第70期 第3四半期連結 会計期間	第71期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成29年 4月1日 至平成29年 6月30日	自平成30年 4月1日 至平成30年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.53	12.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第68期第2四半期連結会計期間より「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が所有する当該株式を自己株式として処理しております。これに伴い、「1株当たり四半期(当期)純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1)業績の概況

当第3四半期連結累計期間(平成29年10月1日～平成30年6月30日)におけるわが国の経済は、海外経済の底堅い回復を背景に、輸出や生産は緩やかな回復基調で推移し、また、雇用・所得環境の改善により個人消費も持ち直してきました。しかしながら、米国発の貿易戦争による世界経済の緊張は高まり、今後、中長期的な景気の下振れリスクが懸念されています。

また、当社グループが係わる食品関連業界では、労働力不足による厳しい雇用環境のなか、家計の節約志向も相まって、引き続き厳しい事業環境が続いています。

このような状況のもと当社グループは、平成29年10月にスタートさせました第六次中期経営計画「Growing Value2020」(3カ年)に基づき、冷蔵倉庫事業では「マーケットインに応える革新と進化」を目指し、食品販売事業では「食料資源の開発と食プロデュースによる安定供給構造の構築」を目指して、事業運営方針の各施策に取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高129,969百万円(前期比10.4%増)、営業利益3,463百万円(前期比17.5%減)、経常利益3,742百万円(前期比18.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、2,354百万円(前期比15.8%減)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

#### ①冷蔵倉庫事業

当第3四半期連結累計期間は、増収増益となりました。当期は新設センター立ち上げ時の一時経費や減価償却費の増加、前連結会計年度に閉鎖した2センターの影響等、利益を下押しする要因がありました。しかしながら近年の新設稼働した各センターが順調に稼働率を向上させて着実に収益に寄与し、また既存のセンターも第六次中期経営計画の主要施策に沿い、顧客ニーズに立った拠点を軸にしたサービスの拡大と集荷活動への取り組みによって保管料収入の増加に結実しております。連結子会社THAI YOKOREI CO.,LTDは、最近時のタイ国内の政治・経済の安定化を背景に生産活動が回復し、畜産品や果物・果汁の在庫が高水準に達し、業績を大きく伸長して当セグメントの収益に貢献しました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績は、売上高は19,567百万円(前期比3.5%増)、営業利益は4,678百万円(前期比4.9%増)となりました。

#### ②食品販売事業

当第3四半期連結累計期間は、増収減益となりました。海外事業や輸出は比較的順調に推移しましたが、国内事業は主力商材の高騰等により荷動きが停滞する厳しい事業環境の中での展開となりました。

水産品は鮭鱒、サバの輸出が収益に貢献し、高値推移が続くエビ、イカ、カニは、コストの上昇を販売価格に転嫁できず利益を圧迫し収益を下押ししました。しかし、ノルウェーのトラウト養殖事業が概ね順調に推移した結果、当カテゴリーは前年対比では増収増益となりましたが、当該養殖事業を除くと大きく減益となっております。

畜産品は、ポーク、チキンともに需給バランスが崩れ、減収減益となりました。第2四半期時点で特に採算性を悪化させていたチキンについては、足元では在庫は正常化し、収益は回復基調にあります。

農産品は、主力商材の馬鈴薯が豊作に伴う単価下落の影響をうけ減収減益となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績は、売上高は110,358百万円(前期比11.8%増)、営業利益は693百万円(前期比58.1%減)となりました。

## (2) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ18,420百万円増加し、192,119百万円となりました。これは主に商品が6,711百万円、受取手形及び売掛金が5,718百万円、有形固定資産が3,766百万円、投資有価証券が3,075百万円増加したこと等によるものです。

負債総額は、前連結会計年度末と比べ11,217百万円増加し、115,227百万円となりました。これは主に社債が10,000百万円、借入金が8,587百万円増加したこと、1年内償還予定の社債が4,778百万円減少したこと等によるものです。

また、純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ7,203百万円増加し、76,891百万円となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」）は、前連結会計年度末に比べ1,966百万円減少の4,432百万円となりました。当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な内容は次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、5,299百万円の資金の減少（前年同四半期は7,182百万円の資金の減少）となり、その主な内容は税金等調整前四半期純利益3,462百万円、減価償却費3,750百万円による資金の増加と、たな卸資産の増加額6,667百万円、売上債権の増加額5,696百万円等の資金の減少によるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、13,932百万円の資金の減少（前年同四半期は6,715百万円の資金の減少）となり、その主な内容は有形固定資産の取得による支出8,860百万円、貸付による支出3,377百万円等によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、17,221百万円の資金の増加（前年同四半期は13,970百万円の資金の増加）となり、その主な内容は社債の発行による収入10,000百万円、金融機関からの借入の純増額8,444百万円による資金の増加と、配当金の支払額1,102百万円等による資金の減少によるものです。

## (4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成30年6月30日）	提出日現在発行数（株） （平成30年8月13日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	58,465,648	59,266,684	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	58,465,648	59,266,684	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数（株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増 減額（百万円）	資本準備金残 高（百万円）
平成30年4月1日 ～ 平成30年6月30日 (注)	1,012,611	58,465,648	481	13,922	481	13,966

(注) 1. 転換社債型新株予約権付社債の転換による増加であります。

2. 平成30年7月1日から平成30年7月31日までの間に、転換社債型新株予約権付社債の転換により、発行済株式総数が801,036株、資本金及び資本準備金がそれぞれ380百万円増加しております。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 335,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 57,075,400	570,754	—
単元未満株式	普通株式 42,637	—	一単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	57,453,037	—	—
総株主の議決権	—	570,754	—

- (注) 1. 完全議決権株式(その他)における普通株式には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式319,900株(議決権個数3,199個)が含まれております。  
2. 単元未満株式数における普通株式には、当社所有の自己株式69株が含まれております。

②【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
横浜冷凍株式会社	横浜市鶴見区大黒町 5番35号	335,000	—	335,000	0.58
計	—	335,000	—	335,000	0.58

(注) 上記のほか、「役員報酬BIP信託」導入に伴い設定された役員報酬BIP信託が所有する当社株式319,900株を四半期貸借対照表上、自己株式として処理しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年10月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,409	4,442
受取手形及び売掛金	21,866	27,584
商品	26,647	33,359
前渡金	8,883	7,740
繰延税金資産	635	466
その他	2,068	3,155
貸倒引当金	△20	△20
流動資産合計	66,490	76,729
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	40,239	42,489
機械装置及び運搬具(純額)	7,019	7,145
土地	27,833	27,855
リース資産(純額)	651	988
建設仮勘定	1,516	2,477
その他(純額)	887	957
有形固定資産合計	78,147	81,914
無形固定資産		
のれん	7,553	7,169
海外養殖事業ライセンス	7,182	7,279
その他	1,734	1,791
無形固定資産合計	16,470	16,240
投資その他の資産		
投資有価証券	9,399	12,475
長期貸付金	2,397	4,066
その他	871	782
貸倒引当金	△78	△88
投資その他の資産合計	12,590	17,236
固定資産合計	107,208	115,390
資産合計	173,699	192,119

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,886	6,376
短期借入金	30,334	34,517
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	6,064	1,286
1年内返済予定の長期借入金	5,503	6,043
リース債務	87	143
未払法人税等	1,719	172
賞与引当金	737	186
役員賞与引当金	35	26
その他	7,159	5,375
流動負債合計	57,527	54,127
固定負債		
社債	—	10,000
長期借入金	41,944	45,810
リース債務	264	536
繰延税金負債	2,897	3,297
役員報酬B I P信託引当金	147	154
退職給付に係る負債	730	836
資産除去債務	105	91
その他	393	372
固定負債合計	46,483	61,099
負債合計	104,010	115,227
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,533	13,922
資本剰余金	11,600	13,989
利益剰余金	41,773	43,026
自己株式	△539	△506
株主資本合計	64,369	70,432
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,061	3,609
繰延ヘッジ損益	△87	18
為替換算調整勘定	1,325	1,692
退職給付に係る調整累計額	△165	△124
その他の包括利益累計額合計	4,133	5,195
非支配株主持分	1,185	1,264
純資産合計	69,688	76,891
負債純資産合計	173,699	192,119

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
売上高	117,699	129,969
売上原価	106,460	118,706
売上総利益	11,239	11,263
販売費及び一般管理費	7,043	7,799
営業利益	4,196	3,463
営業外収益		
受取利息	50	145
受取配当金	129	184
保険配当金	30	37
補助金収入	117	0
為替差益	398	—
仕入割引	154	362
その他	170	328
営業外収益合計	1,051	1,059
営業外費用		
支払利息	325	591
支払手数料	299	2
その他	41	185
営業外費用合計	666	779
経常利益	4,580	3,742
特別損失		
事業所撤去損失	—	280
特別損失合計	—	280
税金等調整前四半期純利益	4,580	3,462
法人税、住民税及び事業税	1,835	827
法人税等調整額	△211	233
法人税等合計	1,624	1,060
四半期純利益	2,956	2,402
非支配株主に帰属する四半期純利益	161	48
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,795	2,354

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益	2,956	2,402
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,065	548
繰延ヘッジ損益	△110	105
為替換算調整勘定	1,287	397
退職給付に係る調整額	81	41
その他の包括利益合計	2,324	1,092
四半期包括利益	5,281	3,495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,029	3,416
非支配株主に係る四半期包括利益	252	78

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,580	3,462
減価償却費	3,429	3,750
のれん償却額	468	481
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△500	△550
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△8	△8
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5	10
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	237	146
事業所撤去損失	—	280
役員報酬B I P信託引当金の増減額 (△は減少)	42	6
受取利息及び受取配当金	△180	△330
支払利息	325	591
売上債権の増減額 (△は増加)	△698	△5,696
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8,999	△6,667
前渡金の増減額 (△は増加)	△3,995	1,159
仕入債務の増減額 (△は減少)	△116	482
未払費用の増減額 (△は減少)	9	230
その他	784	52
小計	△4,616	△2,599
利息及び配当金の受取額	182	281
利息の支払額	△326	△508
法人税等の支払額	△2,421	△2,473
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,182	△5,299
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△6,666	△8,860
有形固定資産の売却による収入	23	2
投資有価証券の取得による支出	△617	△2,364
投資有価証券の売却による収入	—	168
貸付けによる支出	△4	△3,377
貸付金の回収による収入	635	640
その他	△86	△140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,715	△13,932
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,356	4,127
長期借入れによる収入	20,819	8,335
長期借入金の返済による支出	△3,345	△4,018
社債の発行による収入	—	10,000
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△1,051	△1,102
その他	△94	△118
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,970	17,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	137	43
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	208	△1,966
現金及び現金同等物の期首残高	5,200	6,399
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 5,409	※1 4,432

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
現金及び預金勘定	5,419百万円	4,442百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	△10	△10
現金及び現金同等物	5,409	4,432



(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年12月22日 定時株主総会	普通株式	521	10.0	平成28年9月30日	平成28年12月26日	利益剰余金
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	530	10.0	平成29年3月31日	平成29年6月12日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金3百万円がそれぞれ含まれております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成30年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年12月22日 定時株主総会	普通株式	531	10.0	平成29年9月30日	平成29年12月25日	利益剰余金
平成30年5月14日 取締役会	普通株式	571	10.0	平成30年3月31日	平成30年6月11日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金3百万円がそれぞれ含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	18,906	98,747	45	117,699	—	117,699
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,276	—	30	1,306	△1,306	—
計	20,183	98,747	76	119,006	△1,306	117,699
セグメント利益	4,458	1,655	43	6,157	△1,961	4,196

(注) 1.セグメント利益の調整額△1,961百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成30年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,567	110,358	42	129,969	—	129,969
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,488	—	30	1,519	△1,519	—
計	21,056	110,358	73	131,488	△1,519	129,969
セグメント利益	4,678	693	41	5,413	△1,950	3,463

(注) 1.セグメント利益の調整額△1,950百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	53円61銭	42円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,795	2,354
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	2,795	2,354
普通株式の期中平均株式数(千株)	52,139	55,298
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	47円28銭	39円81銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	6,983	3,849
(うち転換社債型新株予約権付社債 (千株))	(6,983)	(3,849)

(注) 「役員報酬BIP信託口」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間362,300株、当第3四半期連結累計期間336,860株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

第71期(平成29年10月1日より平成30年9月30日まで)中間配当については、平成30年5月14日開催の取締役会において当社定款第42条の規定に基づき、平成30年3月31日現在の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し次のとおり中間配当を行うことを決議しております。

- ① 中間配当金の総額 571百万円
- ② 1株当たり中間配当金 10円00銭
- ③ 支払請求権の効力発生 平成30年6月11日  
日及び支払開始日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8月10日

横浜冷凍株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大中 康行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大竹 貴也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横浜冷凍株式会社の平成29年10月1日から平成30年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年10月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横浜冷凍株式会社及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年8月13日
【会社名】	横浜冷凍株式会社
【英訳名】	YOKOHAMA REITO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩渕 文雄
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 井上 祐司
【本店の所在の場所】	横浜市鶴見区大黒町5番35号 (上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の場所で行なっております。)
	最寄りの連絡場所 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号 みなとみらいグランドセントラルタワー7階
	電話番号 (045) 210-0011
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長岩渕文雄及び最高財務責任者井上祐司は、当社の第71期第3四半期（自平成30年4月1日 至平成30年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。